

がん研有朋友の会 会報

# 有明の風

第62号

2024年8月10日発行



## ベートーヴェン第九に寄せて

がん研有朋友の会

理事 大井 康成



私は29年間金融機関で勤務した後、勤務した金融機関の関係会社でビル管理の仕事を11年間して、その後4年間がん研究会で寄付募集の仕事をさせていただきました。その時の縁でこの度「友の会」の運営を、お手伝いすることになりました。

皆様ご存じのとおり、今年2月に「友の会」の創立に尽力されました、がん研究会名誉院長武藤徹一郎先生が逝去されました。「有朋友の会」発足時、がん研有明病院 病院長を務めておられた武藤先生が、会報「有明の風」創刊号に寄せられた寄稿には、先生が、欧米の実情を踏まえ「…本会を通じて、会員の方々はがん医療に関して色々な面でメリットを受けることが出来ますし、病院は友の会を通してより多くの方々と密接な関係を築くことが出来、がん研有明病院が持っているトップクラスのがん医療の実態を広く知つてもらうことが出来ると考えております。友の会の会員にとっても病院にとっても、お互いに得る所の多い組織にしたいと願っております。…」と言われております。友の会の理事の方々はこの精神を持ちながら運営に携わっておられます。私も微力ながら、友の会の発展に力を尽くさせていただきたいと、思っております。

去る6月30日に、東京オペラシティで「がん患者さんが歌う

第九チャリティーコンサート」が開催されました。今回で3回目です。過去2回も鑑賞させていただきましたが、毎回身震いするような感動を覚えます。今回についても5か月にもわたる猛練習の賜物で、指揮者の藤岡幸夫さんのリードよろしく、オケの日本フィル、ソリストの皆さん、佐野病院長を中心とする病院スタッフとがん患者様の合唱団の渾然一体となった素晴らしい演奏が展開されました。会場も一体になったような涙の出るような、感動の演奏でした。演奏が終わると万雷の拍手がおさまりません。当日は秋篠宮妃紀子さまのご臨席も賜っておりましたが、演奏終了時には隣におられた浅野理事長様とも盛んに言葉を交わしながら一生懸命いつまでもいつまでも拍手をされていたのが印象的でした。たまたま、近くの席で鑑賞させていただきましたので、さすがに胸が熱くなりました。

この演奏会はチャリティーコンサートですが、参加された方もそうでない方も、患者様を元気付け、病院関係者を勇気づける素晴らしいイベントになったと思います。この姿ががん研究会関係者全員の目標ではないかと思います。今年はがん研究会創立に尽力された渋沢栄一翁が注目される年でもあります。みんなで力を合わせ「がん克服をもって人類の福祉に貢献する」という使命を果たしたいものです。その中で「有朋友の会」が有力な役割を果たせるように、私も力を尽くしたいと思います。

## がん研有明友の会

# 第19回定期総会報告

去る、6月26日(金)がん研究会吉田記念講堂にて、令和6年度(2024)第19回定期総会が開催されました。渡邊会長から本会活動に対する強い決意が述べられた後、限られた出席者数でしたが約1時間ですべての議案は原案通り承認されました。議事審議の内容、報告承認事項の主なものは次の通りです。

### ①令和5年度(2023)事業報告

会報発行は例年通り年4回発行、9月の講演会・懇親会は今回も中止、がん研支援金寄付は4~5年度分合計200万円を一括贈呈、ボランティア支援室へ5万円寄付、寄付累計額は2,400万円余です。また、がん検診割引支援(168名×@3,000円)、理事会年3回、第18回定期総会開催、4委員会は会員増強推進委員会を除き随時開催。

### ②令和5年度(2023)決算報告

会費収入は予算に対して約4%減5,612,516円、支出は会報発行年4回、ホームページ維持費半減、入会パンフレット印刷0円、人件費2.5%増、事務用品費30%減、予備費0円等により約6%減の6,429,585円等となり、前期がん研支援金寄付100万円が当期に算入されていますが、当期収支繰越額は増加しています(+182,931円)。

### ③令和6年度(2024)事業計画

病院の新たな感染症対策を考慮しながら活動範囲を広げていきたいと考えています。会報発行は年4回、当院主催の一般公開講座は未定。がん研支援寄付100万円・ボランティア支援5万円・がん検診割引支援継続。対面理事会は年4回、第19回定期総会・講演会は6/26(水)実施いたしました。また、4つの委員会は随時開催いたします。

### ④令和6年度(2024)収支予算

収入は昨年通り5,610,000円いたしました。支出は入会パンフレット、がん研支援金寄付・ボランティア活動支援・がん検診割引支援金は同額、人件費は世の動向を見ながら前年実績優先、当期収支繰越残高は増加しています(+817,069円)。

### ⑤令和6年度(2024)会則の一部変更及び役員体制について

創立以来、副会長としてご尽力いただきました中村澄子副会長がご勇退されました。ここに改めて深く感謝申し上げます。そこで、中村さんには「本会会則第9条 理事会」の改正により「相談役」が新設されましたので、理事会で満場一致で承認されました。新副会長には今井昭子理事が就任いたしました。また、新理事として、金融機関及びがん研募金課勤務経験のある大井康成氏が新理事として就任いたしました。

以上3名の方々は本総会で承認され、他の理事・監事は留任となりました。

議事終了後、渡邊会長から病院代表としてご出席の副院長山口研成先生へ寄付目録贈呈を行い、山口先生から病院を代表してお礼のご挨拶をいただきました。



寄付目録贈呈

## 総会終了後講演会を開催しました

遺伝性腫瘍の方々に対するがん治療や予防に活かす取り組み、また「遺伝カウンセリング」について臨床遺伝医療部植木有紗部長、認定遺伝カウンセラー新川裕美さんにわかりやすく講演いただき、活発な質疑応答の後終了いたしました。

### 遺伝カウンセリング・検査からがんの予防へ



臨床遺伝医療部では「遺伝性腫瘍」という、がんを発症しやすい体質に関する相談や遺伝学的検査などを行っています。がん発症に関連する遺伝情報は、ご本人の治療の選択肢を検討したり、ご本人と血縁者の新たながんへの対策に有用ですので、当院全体で遺伝性腫瘍診療に取り組んでいます。臨床遺伝医療部には臨床遺伝専門医と遺伝カウンセラーが常勤・兼務を合わせ10名在籍し、月曜日から金曜日まで毎日診療を行っています。

ご予約をご希望の方は当院主治医にご相談下さい。当院通院中でない方は診療予約室にご連絡下さい。臨床遺伝医療部ホームページは右のQRコードからご参照ください。



# がん研究会有明病院の思い出

シリーズ  
②トータルケア  
センター

がん研究会有明病院 前副院長・乳腺センター長 大野 真司

がん研究会有明病院は日本で最高の治療を提供する病院です。多くの患者さんに対して、高い知識と技術をもった医療者が手術、薬物療法、放射線療法、臨床試験などが行われています。一方、私が担当する乳がん患者さんには、将来の妊娠・出産、親の介護、仕事、家族、治療費などさまざまな社会的・経済的・心理的な課題を抱えておられる方が少なくなく、さまざまなサポートが必要になります。当時院長であった山口俊晴先生からの指示で院長補佐の仕事を担当することになり、患者さんのためのシステム改善に取り組ませていただきました。



まず数名の医師、看護師を中心に、「鬼に金棒プロジェクト」を立ち上げることとなりました。がん研の日本トップの治療に、患者さんとご家族へのケアが素晴らしいものになると、まさに「鬼に金棒」だということで名づけられたものです。まずは外来への電話システムを見直すことになりました。外来には毎日400本以上の電話が交換かかってきており、外来看護師は電話対応に追われて外来患者さんに向き合うことができにくく状況でした。そこで再来患者さんからの電話を再診コールセンターに統一し、電話の内容が症状なのか、検査関連なのかなどによって振り分けることができるようになりました。2020年春の新型コロナウイルス感染拡大によって、多い日は3,000本以上の電話がかかってきていたので、その直前に変更できたことはとても良かったなと思います。治療が複雑になって副作用も多岐にわたるようになり、外来電話は増える一方です。電話の数を増やしたりもしていますが、まだまだご迷惑をおかけしていることはどうかご容赦ください。

次に、患者さんが必要としているケアにスムースに到達できるように「トータルケアセンター」を作ることになりました。トータルケア部としてスタートし、患者さんの初診から、入退院、外来への移行、他院との連携を支援することと、患者さんやご家族がお困りのことにいつでも適切に対応できることを目的にしています。2021年5月にはトータルケアセンターとなってより充実したものとなりました。外来1階のホスピタルストリートにはコンシェルジュを設置していつでも案内ができるようになりました。

私は鹿児島市にある乳がん専門の特定疾患がん診療連携拠点病院相良病院に勤務しています。病院の目の前には桜島が大きくそびえていて心も癒されます。ぜひ一度南国鹿児島にお越しください。



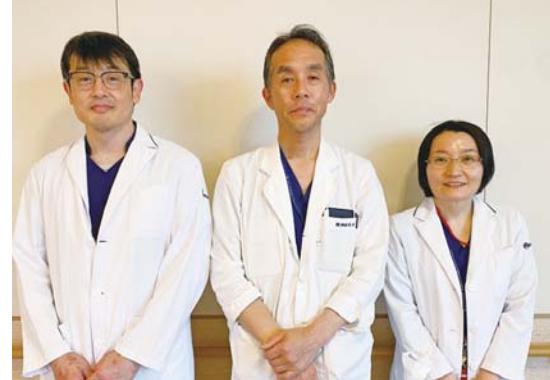
トータルケアコンシェルジュ

# 脳腫瘍外科におけるがん治療

がん研有明病院 脳腫瘍外科 部長 宮北 康二

前号(61号)から続き

私は2023年4月に、がん研究会有明病院へ異動となり脳腫瘍外科部長としての任を負っておりますが、前任地はわずか4.5kmほど内陸へ向かった中央区築地の国立がん研究センター中央病院でした。がん研が埋立地の上にあることを疑う人は少ないと思いますが、実は国がんも江戸時代より前までは遠浅の海、干涸だった場所に建っているのだそうです。国がんのある「築地」は築かれた土地が由来らしいですが、がん研の地「有明」は今後の開発に光明をとのことと、隣接する「東雲」が夜明け頃を表す意味とのつながりもあって「有明」となったそうです。



左から米澤元樹、宮北康二(筆者)、大村朋子

がん研も国がんもいずれもがんの専門病院ですが、がんは手強い相手で、その克服は険しい道のりだと思います。2019年から猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は身体の外から入ってきて攻撃をしてくる病気ですが、がんは自分自身の細胞からできたにもかかわらず、自分自身をむしばむ厄介な病気です。身体の中にある細胞はすべて自分自身であり、本来は自分をつくり、秩序を保って存在しています。ところがなぜかどこかで細胞に異変が起こり、無秩序かつ無制限に増殖するのががん細胞です。さらに悪いことに、がん細胞はできた場所から離れて、血管やリンパ管の中に入り込み、その流れに乗って移動し、他の臓器に到達し、そこでさらに増殖を始め、転移巣を形成してしまいます。私が専門の脳という臓器は、重量わずか1.2~1.5kg、体重の2%程度にもかかわらず心臓から排出される血液の15%以上が脳へ行くために、血流に乗ったがん細胞が脳へ転移する頻度は低くはありません。

全ての生きものには、外から侵入する細菌やウイルスを敵と認識して排除する力がありますので、自らの免疫力でコロナウイルスを追い出した方も少なくないと思います。がん細胞もがんとなった時点で敵となり、常に免疫力にさらされて排除されるべき対象となっています。ところが、がん細胞もしたたかで、がん細胞を攻撃してくる力を弱めるように免疫系の細胞に働きかけ、排除の力を封じ込めて生き残ろうとしています。この本来人間がもつ、がん細胞を排除する力を高めることでがんを治療しようとする薬剤が、ご存じの2018年にノーベル生理学医学賞受賞の本庶先生が見出したがん免疫療法による薬剤です。

これにより脳腫瘍も治るのではと期待する研究はあるもののまだまだ甘くはないようです。脳の血管は他の血管と異なり特殊であり、強い障壁をもつ構造のために、大きな分子量の薬剤は脳に届きにくくなっていて、これを血液脳関門と呼んでいます。これが要因でがん免疫療法の効果が得られにくいとか、脳固有の免疫環境がその原因であるだとか分かっていないことも含めて、治療の壁はまだ高いようです。

私は脳腫瘍外科医です。切って治すのが仕事ですが、切らずに治す薬ができる、私の仕事がなくなることが人々の幸せなのではないかと思いながら、今日も手術着に着替えました。がん研に入り込んでや1年半が過ぎようとしています。赴任した当初は、こいつは何者かと思われていたはずですが、認知度を高めて実は役に立つ仲間だと思ってもらえるようにまだ努力が必要と考えております。そしてがんを罹患している方々へ、ここ有明で少しでも明るい光を照らせるようにこれからも頑張りたいと思っております。

連載1

# がんゲノム医療とは？～ゲノム診療部の紹介～

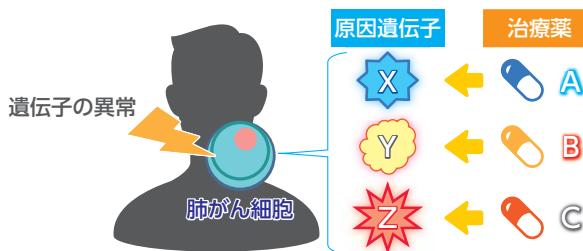
がん研有明病院 ゲノム診療部 副部長 深田 一平

「the right treatments at the right time, every time, to the right person」

これは、オバマ米国大統領(当時)が2015年の一般教書演説で語ったプレシジョンメディシン(個別化医療)を象徴する一文です。この演説の中で、輸血する際に行う血液型検査は偉大な発見だったと個別化医療の例を引用した上で、がんを治すために、どうしてゲノム情報を簡単に利用することができないのか、と問い合わせました。「がん細胞」に起きている遺伝子の変化を調べ、その特徴を知ることで、個々のがんの病態の把握や病状に適した、より効果的効率的ながん治療を行うことが期待されています(図1)。



## がんゲノムとは



- 「がん」は、遺伝子に異常が起きることで発生する。
- 同じ「肺がん」であっても、原因となる遺伝子変異はさまざまであり、対応する薬剤も異なる。
- ゲノム医療では、原因となる遺伝子変異を特定して、より効果が高い治療薬を選択することが可能となり、患者一人一人にあった「個別化医療」につながる。

図1

## がんゲノム医療の提供体制

(令和6年6月時点)

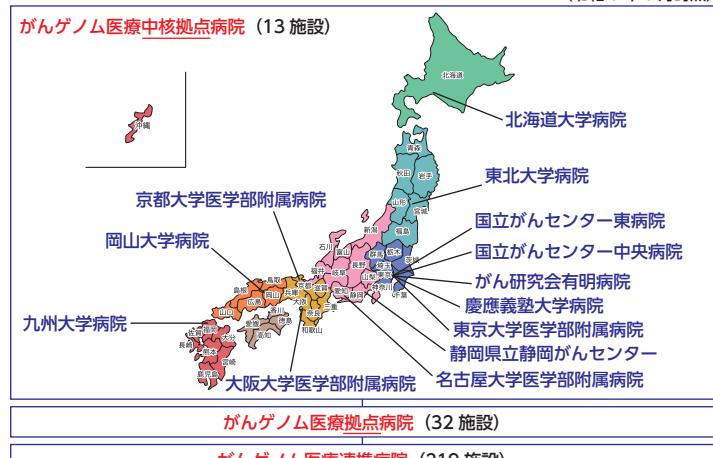


図2

我が国においては、第3期がん対策推進基本計画に「がんゲノム医療」が初めて掲げられ、それに基づきがんゲノム医療提供体制の整備が進められています。2024年6月現在、厚生労働省が指定した、がんゲノム医療を牽引する高度な機能を有する医療機関である「がんゲノム医療中核拠点病院」(13箇所)や「がんゲノム医療拠点病院」(32箇所)、これらと連携してがんゲノム医療の提供を行う「がんゲノム医療連携病院」(219箇所)で、がん遺伝子パネル検査を実施することが可能となっています(図2)。

がん遺伝子パネル検査は、がんに関連する多数の遺伝子(100～700個程度)を一度に解析することで、治療方針の決定を補助し、がんの治療成績の向上につながることが期待されています。2019年6月に保険適用となり、2023年12月現在、5種類のがん遺伝子パネル検査を用いて国民皆保険制度の下で本格的に運用されています。

がん遺伝子パネル検査の結果得られる情報は、これまでの医療で実施されていた検査よりも複雑になっています。そのような複雑な情報をゲノム医療、薬物療法、遺伝の専門家や病理医等が集まって議論し(エキスパートパネル)、最適な治療や、どのように検査結果を患者さんにお伝えするかを検討します。

がん研究会は「がんゲノム医療中核拠点病院」に指定されており、ゲノム診療部が主体となり、各診療科、臨床遺伝医療部、先端医療開発科、病理部、がんプレシジョン医療研究センター等が緊密に連携することによって病院と研究所が一体となり、我が国のがんゲノム医療を牽引しながら、その恩恵を患者さんに届けるべく診療や研究に取り組んでいます。

現時点では、がん遺伝子パネル検査は、標準治療のない固形がん、もしくは標準治療が終了となった固形がん(終了が見込まれる者を含む)の患者さんのみが対象となっており、また遺伝子変異に応じた治療薬(分子標的薬)の開発が進められているものの臨床試験や治験での提供を含めても治療選択肢は限られています。したがって、がん遺伝子パネル検査を受けた後に、遺伝子変異に対応した治療が受けられる確率は10%程度(図3)ですが、遺伝子パネル検査で見つかった薬剤で治療奏効が得られることが多く、がんゲノム医療のさらなる発展が期待されています。

(連載②につづく)

## 遺伝子パネル検査に基づく治療提案と治療到達率

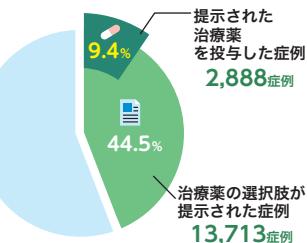
エキスパートパネルの症例\*

30,822症例

※2019年6月1日以降2022年6月30日までにC-CAT調査結果が返却された症例のうち、臨床情報収集項目Ver.1.2.1以降の症例(当該項目未入力の4例を除く)

がんゲノム情報管理センターホームページより  
<https://for-patients.c-cat.ncc.go.jp/> (2024年6月6日閲覧)

図3



# 寄稿

## 大幸俊三様 プロフィール

1946年 金沢市生まれ  
 1970年 日本大学医学部 整形外科所属  
 1977年 西ドイツ ギーセン大学 整形外科 研究員  
 1981年 米国 ハーバード大学 マサチューセッツ総合病院 研究員  
 1982年 日本大学 整形外科 講師  
 1997年 同 助教授  
 2006年 同 教授  
 2012年 同 科学研究所 教授  
 2012年 春日部市立医療センター非常勤  
 現在に至る

### [主な著書]

- 骨盤腫瘍の外科療法 杏林書院 1995
- 骨軟部腫瘍外科画像アトラス 全日本病院出版会 2014
- 明治生まれの胃腸外科医 北國新聞 2019
- がん骨転移—運動器マネジメント Amazon 2022

## 私のがん研への感謝とがん骨転移について

私は1970年に日本大学整形外科に所属し、骨軟部腫瘍の研究を行うことになりました。以前から東京医科歯科大学（東医歯大）と日本大学病院がお茶の水にあり、便が良いことから、両大学で交互に月一回の関東・北信越地区骨軟部腫瘍検討会を開催しており、親しい関係にありました。その後、東医歯大の川口智義先生らが癌研究会附属病院（がん研）に移り、骨軟部腫瘍の研究会を立ち上げ、有明に移動してからも、引き続き松本誠一先生らが全国の骨軟部腫瘍医のために教育を兼ねた研究会が開催され、がん研に行く機会が増えました。また素晴らしい施設に羨ましく思っていました。そんな中、私の甥に膝の悪性腫瘍が見つかり、がん研の松本先生や阿江啓介先生に手術と化学療法を行っていただきました。術後の経過は良好でしたが、5年近くなって、肺に5mmほどの腫瘍が発見され、呼吸器外科の中尾将之先生に切除していただき、再発や転移なく感謝しております。また、古い話ですが、がん研外科部長だった久留 勝先生が1941年に金沢大学教授として迎えられ、父が先生を恩師として慕っていたこと、1984年には留学中お世話になったハーバード大学眼科病理の向井紀二教授が「対がん総合戦略」で一時帰国された際に、胃がんが見つかり、先生の東大病理時代からの友人である西 満正院長の手術を受け、何度も伺ったことを思い出します。

私も、定年後13年になり、春日部市立医療センターの非常勤で勤務していますが、7年前から新病院となり、PET-CTが導入され、がん骨転移が私のところに紹介されるようになりました。色々調べているうちにまとめたいと思い、3年ほどかけて一昨年「がん骨転移—運動器マネジメント」をAmazonから出版できました。当院では肺がんが多く、40%ほどが骨転移します。患者さんの大部分が喫煙しており、死亡率も高いですが、喫煙の少ない男女で、EGFR変異の遺伝子を持った腺がんの方が40-45%おり、21世紀になり分子標的薬が発見されてから、急速に成績が向上し、5年以上生存されている患者さんも多くなっています。勿論、転移のない早期肺がんを切除できれば成績は良好です。がんが骨転移することをあまり馴染みのない方が多く、呼吸器科の医師たちは骨のことは整形外科で聞いてくれと依頼され、また、患者さんは私と同年代の方が多く、相談しやすいようで、診察時間も長くなりますが、患者さんからは喜ばれているようです。がんに罹った患者さんは身体的、心理的な障害から活動性が低下し（がんロコモ）、急速に骨密度も低下しますので、適当な運動に、投薬が必要となります。骨転移を来たせば骨破壊を防ぐため、放射線療法や骨修飾薬の投与も重要です。以上、私のがん研との思い出とがん骨転移について述べました。お役に立てれば幸いです。



孫と一緒に

# 紙飛行機

～友の会 会員便り～

## 野菜作り

友の会 会員 長谷川 優代

コロナの日々が始まり生活が変わって行く中で、野菜の輸入が少なくなり値段が高くなつて行き、はて！どうしたものかと思い、畠を借りて野菜作りを始めようかと！

息子に頼んで貸し畠を探してもらうと、わりと近いところに畠があることが分かり、早速問い合わせて下見に行きました。指導して下さる方や道具も揃っており、初心者の私でも出来そうと、早速3畠借りました。



孫との収穫

鍬やスコップで土を耕し、化学肥料を使わず牛ふんや油かすを入れ、種を蒔く、ビニールやネットをはり水をやる。

一週間に1、2日の作業でしたが、このように身体を使ったのは久しぶりで、収穫を楽しみに汗を流しました。

ナス、キュウリ、ピーマン、キャベツ、ダイコン、それにミニトマト（一本の苗から一回に50個以上収穫）いろいろな野菜を作りました。本当に楽しかったです。

主人も最初は畠をする事にびっくりしておりましたが、力仕事や収穫を手伝ってくれ、結構楽しんでおりました。

生活が変わりましたがなんとか元気に過ごせている事に感謝いたしております。

## 塩レモンチキン

がん研有明病院 栄養管理部

◆からだにやさしい食事◆

### 材料 (2人前)

鶏もも肉(皮付き) …… 1枚 (約250g)	塩……………少々
	こしょう……………少々
	にんにくすりおろし…適量
★ レモン果汁……………大さじ1	
料理酒……………小さじ1	
醤油……………小さじ1/2	
薄力粉……………大さじ1	
お好みの野菜……………適量	

### 作り方

- 鶏もも肉は皮付きのまま、食べやすい大きさに切る。
- ★を混ぜ合わせた調味液に、①を漬ける。
- 180°Cに熱したオーブンに②を入れ、10分程度焼く(フライパンで焼いてもよい)。
- お好みの野菜を添えて、盛り付ける。  
※写真はアスパラをグリルして添えています。

### 一口メモ

レモンの風味で暑い夏でもさっぱり食べることができます。鶏肉は良質なたんぱく質を豊富に含んでおり、筋肉の疲労回復や身体の持久力向上に効果があります。猛暑に負けない身体づくりにおすすめです。



## がん研有明友の会 過去と現在・未来へ！

8月に咲く花、サルスベリ・コスモスを目に浮かべながら、新生なった「(公財)がん研究会(略称 がん研)」が平成17年(2005)に現在地に研究所・病院を新設、移転、翌年の平成18年(2006)4月に「がん研有明友の会(略称 有明友の会)」が病院を支えるボランティア団体として設立され、同年12月に会報第1号が発行されたことを改めて確認いたしました。月日の経つのは早いものだとつくづく感じる昨今です。

以来、18年目を迎えた本年5月、会報有明の風第62号を発行、病院にとってもなくてはならない存在と自負しています。現在のがん研理事長 浅野敏雄氏も自主的に友の会々員としてご入会下さり、陰に日向に活動されておられます。

話が飛んで恐縮ですが、人類で初めてがん患者が認められたのは6万年前と云われています。人間の一つの細胞が分裂して膨大な細胞が生まれ、その過程で遺伝子に変化が起こり、がんが発生しやすくなったことが原因と云われています。また、がんに関する最古の文献には、紀元前2600年頃に活躍したエジプトの医師イムホテプによる乳房にできた、がんへの取り組みが記録されています。

日本のがん対策は昭和40年頃までは集団検診が中心でしたが、今日では多くの機会に諸機関で検診・健診が実施されており、がん全体の5年生存率は60%を超えてます。本友の会も皆さんのご理解・ご協力を頂きながらこれからも頑張ってまいりますので、よろしくお願ひいたします。

## 有明の風 表紙の写真について

「阿佐谷七夕まつり」は昭和29年に始まり、毎年8月上旬に開催されております。

コロナウイルス感染症で開催が出来ませんでしたが昨年(2023年)4年ぶりに開催され、アーケード入り口に飾られた巨大な「くす玉」や「笹の葉」が風に吹かれ揺れている一コマです。

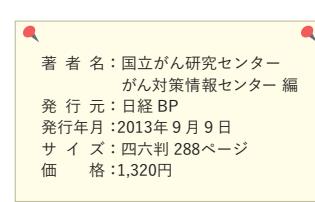
撮影と説明：友の会理事 瀧澤邦夫

## この一冊

### 私も、がんでした。 がんとともに生きるための処方箋

前号で、これからは必ずしもがん研に関わらない編者、内容の本の紹介をする旨お伝えしましたが、今回の紹介は国立がん研究センターがん対策情報センター編のものです。がんに罹った患者さん、その家族の人、医療に従事する医師、その他周りの人がその経験から得たがんに対峙する心構え、過ごし方についての知見があげられています。

もう10年以上も前に出版されたのですが、昨今の目覚ましい医学の進歩の下にあっても、変わらない基本の基であると思われます。NETでの入手が可能ですので今更ながらここにご紹介いたします。



## 有明友の会 入会のご案内

有明友の会は、がんで命を落とさないようにするために、がんに関する知識を深め、情報を共有し、がんに気をつけよう、がん研究の支援により、進んだ医療が受けられるようにしようということを目的にしております。

その活動は、年4回の会報発行、公開講座の開催などの他、日本で最も歴史のあるがん研究会の事業支援をしており、年会費は5,000円(個人、一口)となっております。多くの皆様のご入会をお待ちしております。

がん研有明友の会会報 発行元・事務局

〒135-8550 東京都江東区有明3-8-31 がん研有明病院内 TEL: 03(3570)0561 FAX: 03(3570)0562  
HP: <http://ariaketomonokai.org> E-mail: [tomonokai@jfcr.or.jp](mailto:tomonokai@jfcr.or.jp)



◀友の会ホームページ